

- 問 G-5 妊娠を避けたり性感染症を予防するために、どのような用心をすればいいのか、あなたは性交をする前に相手と話をしましたか。あてはまる番号に○をつけてください。
1. 話はしなかった 2. 話をした 3. 覚えていない 15
- 問 G-6 初めての性交相手とあなたとはどんな関係でしたか。その後、2人の関係に変化があったとしても、その時の関係として一番近いものをひとつだけ選んで番号に○をつけてください。
1. 夫あるいは妻だった 2. 付き合っている相手(ステディな関係) 16
3. 知ってはいたが付き合っている相手ではない
4. 知り合ったばかりだった
- 問 G-7 その人はあなたと比べて年齢はどうでしたか。あてはまる番号に○をつけてください。
1. 若かった 2. (ほぼ)同年齢だった 3. 年上だった 17
- 問 G-8 その人の生年月日を覚えていますか。 18
1. いる (西暦 年 月) 2. 不明、覚えていない 19 20 21 22 23 24
- 問 G-9 どちらが先に(性交について)言い出しましたか。あてはまる番号に○をつけてください。
1. 自分 2. 相手 3. 不明、覚えていない 25
- (3. と答えた人はG-11に進んでください)
- 問 G-10 言い出された相手(自分の場合もある)の反応はどうでしたか。あてはまる番号に○をつけてください。
1. その時同意した 2. 後で同意した 26
- 問 G-11 これまでにあなたは何人の人と性交経験がありますか。
- 人 27 28
- 問 G-12 あなたは今までに性交をするのにお金を支払ったことがありますか。次の番号の中からひとつだけ選んで○をつけてください。
1. 全くない 2. 時々ある 3. しばしばある 4. 頻繁にある 29
- 問 G-13 あなたはここ3ヶ月の間に、どれくらいの性交回数がありますか。あてはまる番号に○をつけてください。
1. 一度もない 2. 1ヶ月に1回未満 3. 1ヶ月に1回 30
4. 1か月に2～3回 5. 週に1回 6. 週に2～3回
7. 週に4～5回 8. ほぼ毎日
- 問 G-14 あまり好きでもない人と、どのくらい性交渉がありますか。あてはまる番号に○をつけてください。
1. 全くない 2. 時々ある 3. しばしばある 4. 頻繁にある 31

- 問 G-15 あなたに、付き合っている相手がいるのに、その人以外の人と性交渉
がありますか。あてはまる番号に○をつけてください。

1. 全くない 2. 時々ある 3. しばしばある
4. 頻繁にある

- 32

- 問 G-16 付き合っている人以外との性交の際、あなたはコンドームなしで性交したことがありますか。あてはまる番号に○をつけてください。

1. 全くない 2. 時々ある 3. しばしばある
4. 頻繁にある

- 33

- 問 G-17 もっとも最近の性交時、あなたか相手の人は妊娠を避けたり性感染症を予防するために何かしましたか。あてはまる番号に○をつけてください。

1. 何もしなかった 2. 安全期だった
3. 膣外射精(性交中断)をした 4. コンドームをした
5. ピルを飲んでいた 6. IUD をしていた
7. その他()
8. 不明、覚えていない

- 34

〈1. と答えた人は問G-19に、8. と答えた人は、問Hに進んでください〉

- 問 G-18 その方法を選んだのはなぜですか。あてはまる番号に○をつけてください。

1. 妊娠を避けるため 2. 性感染症を予防するため
3. 1. と 2. の理由から 4. 医学的な理由から

- 35

- 問 G-19 〈問 G-17で 1. と答えた人のみ〉妊娠あるいは性感染症を避けるために何もしなかったのは何故ですか。あてはまる番号に○をつけてください。

1. 子どもが欲しいと思っている 2. 子どもはできないことと、性感染
症にかからないことを私達は承知していた 3. 何もしたくなかった
し、相手も私の言うとおりに従った 4. 相手がいやがったし、私も相手
の言うとおりにするのがいいと思った 5. 両方ともいやがり、一か八
か賭けてみた 6. いつもはもっと慎重だが、その時はハズミでそう
なってしまった 7. どうしたらいいのか2人ともわからなかった
8. 行きずりの相手だったから

- 36

問H ここではカップルの関係性について伺います。

- 問 H-1 いままで、あなたは付き合っていた相手(ステディな関係)がいますか。あてはまる番号に○をつけてください。現在進行中の関係も含めてください。

1. はい 2. いいえ

- 〈2. と答えた人は問Jに進んでください〉

- 37

問 H-2 初めてそのような相手を持ったのはいつのことですか。

西暦 年 月

38 39 40 41 42 43

問 H-3 最新の付き合っている相手と交際が始まったのはいつでしたか。もし、その相手が最初の人と同じだったら、前の問と同じ回答をしてください。

西暦 年 月

44 45 46 47 48 49

問 H-4 そのような関係が終わったのはいつですか。

50

1. 西暦 年 月 2. 続行中

51 52 53 54 55 56

問 H-5 あなたが付き合っている(いた)もっとも最近の相手の年齢は、次のうちのどれですか。あてはまる番号に○をつけてください。

1. 年下 2. 大体同じ年齢 3. 年上

57

問 H-6 一番最近の付き合っている(いた)相手の中で、自分か相手からか、「性交渉をもとう」ということを言い出したことがありますか。あてはまる番号に○をつけてください。

1. ある 2. ない

58

〈2. と答えた人は問IIに進んでください〉

問 H-7 〈問 H-6 で 1. と答えた人のみ〉「性交渉をもとう」と言い出したのはどちらからですか。あてはまる番号に○をつけてください。

1. 自分 2. 相手

59

問 H-8 その話を切り出された相手(自分の場合もある)の反応はどうでしたか。あてはまる番号に○をつけてください。

1. その時、同意した 2. あとで同意した

60

3. 同意しなかった。このため相手とは性交渉はなかった。

〈3. と答えた人は問IIに進んでください〉

問 H-9 一番最近付き合っている(いた)相手との中で、最初に性交渉を持ったのはいつでしたか。

西暦 年 月

61 62 63 64 65 66

問 次に、付き合っている相手と一緒に暮らすこと(同棲)について伺います。

問 I-1 あなたはいままでに、付き合っている相手と一緒に暮らしたことがありますか。あてはまる番号に○をつけてください。

1. ある 2. ない

67

〈2. と答えた人は問IIに進んでください〉

問 I-2 最初に暮らし始めたのはいつですか。

西暦 年 月

68 69 70 71 72 73

問 I-3 あなたが初めて一緒に暮らした相手の年齢は、次のうちのどれですか。あてはまる番号に○をつけてください。

1. 自分より年下 2. 自分とほぼ同年齢 3. 年上

問 I-4 これまでにあなたが一緒に暮らした相手は何人ですか。

人

問J エイズのリスク行動について伺います。

問 J-1 次の項目のうち、どの様な行為や状況がエイズのリスクを高めると思われますか。それぞれについて該当する番号に○をしてください。

	リスク はない	リスク は低い	リスク は高い	わ か ら ない
同じ注射針を使って薬物を注射する	1	2	3	4
蚊やその他の虫に刺される	1	2	3	4
知らない人とコンドームなしでセックスをする	1	2	3	4
HIV 陽性の人を抱きしめる	1	2	3	4

問 J-2 あなた自身のこれまでの行動をふり返り、また、エイズにかかる理論上の可能性を考慮した上で、次にあげる状況に自分は最も近いと考えるか、あてはまる番号に○をつけてください。

1. 安全ではないセックスはしていないから自分は大丈夫
2. 何も心配はしていない。何をしてもリスクは避けられないから
3. もっと用心をして、リスクを避けるべきである

問 J-3 あなたはいままでに、以下にあげるような経験をしたことがあるかどうか、各項目について、あてはまる番号に○をつけてください。

	こ と も な い	考 え た	心 配 し て	エ イ ズ を	心 配 し て	そ の 他 の こ と を
コンドームを使う	1	2	3			
機会はあるけれど、知らない人との性交は避ける	1	2	3			
機会はあるけれど、休暇中に決まった相手以外との性交は避ける	1	2	3			
機会はあるけれど、同性とのセックスは避ける	1	2	3			
HIV・エイズの検査を受ける	1	2	3			

問 J-4 程度の軽いものも含めて、あなたは今までに、何らかの性感染症にかかったことがありますか。あてはまる番号に○をつけてください。

1. まったくない 2. 1 回ある 3. 数回ある

87

問K 最後にあなた自身のものの考え方や意見・態度について伺います。

次の K-1 から K-4 までの質問について、あなたが適当だと思える年齢を答えてください。

5=4

問 K-1 何歳までは性交経験をすべきでないとあなたは考えますか。男性、女性のそれぞれの場合について答えてください。

1. 男性 歳まで 2. 女性 歳まで

6 7 8 9

問 K-2 何歳まで処女・童貞でいたら「遅すぎる」とあなたは思いますか。男性、女性のそれぞれの場合について答えてください。

1. 男性 歳まで 2. 女性 歳まで

10 11 12 13

問 K-3 若い人達は何歳まで結婚すべきでないとあなたは思いますか。男性、女性のそれぞれの場合について答えてください。

1. 男性 歳まで 2. 女性 歳まで

14 15 16 17

問 K-4 若い人達は何歳を過ぎたら未婚のままにいるべきでないとあなたは思いますか。男性、女性のそれぞれの場合について答えてください。

1. 男性 歳まで 2. 女性 歳まで

18 19 20 21

問 K-5 次に述べる状況を思い描いた上で、あなた(男性、女性を問いません)の考えをひとつだけ選んで番号に○をつけてください。
「付き合い始めたばかりの2人のうち、男性が女性に性交渉をしようともちかけました。女性はふつう、どのように反応するでしょうか」

1. 自分でどうするか決める心の準備ができるまでノーと言う。
2. 喜んで賛成する
3. いさかいを避けるため同意する。

22

問 K-6 「付き合い始めたばかりの二人のうち、女性が相手の男性に性交渉をもちかけました。男性はふつう、どのように反応するでしょうか。あてはまる番号に○をつけてください。

1. 自分でどうするか決める心の準備ができるまでノーと言う。
2. 喜んで賛成する
3. いさかいを避けるため同意する。

23

問 K-7 若い人達の間で起こりがちな以下の状況について、あなたの両親や友人、そして、あなた自身はどんなふうに考えるでしょうか。それぞれについてあてはまる番号に○をつけてください。

〈男性が非常に若い年齢で性交を経験する〉

	しない	まずしない	たぶんする	する
私の男性の友人は同意を	1	2	3	4
私の両親は同意を	1	2	3	4
私は同意を	1	2	3	4

〈女性が非常に若い年齢で性交を経験する〉

	しない	まずしない	たぶんする	する
私の女性の友人は同意を	1	2	3	4
私の両親は同意を	1	2	3	4
私は同意を	1	2	3	4

〈付き合っている相手(ステディな関係)のいる男性が、ある日「一夜だけの情事」をする〉

	しない	まずしない	たぶんする	する
私の男性の友人は同意を	1	2	3	4
私の両親は同意を	1	2	3	4
私は同意を	1	2	3	4

〈付き合っている相手(ステディな関係)のいる女性が、ある日「一夜だけの情事」をする〉

	しない	まずしない	たぶんする	する
私の女性の友人は同意を	1	2	3	4
私の両親は同意を	1	2	3	4
私は同意を	1	2	3	4

〈決まった相手のいない男性が、行きずりの相手と性関係をもつ〉

	しない	まずしない	たぶんする	する
私の男性の友人は同意を	1	2	3	4
私の両親は同意を	1	2	3	4
私は同意を	1	2	3	4

36

37

38

〈決まった相手のいない女性が、行きずりの相手と性関係をもつ〉

	しない	まずしない	たぶんする	する
私の女性の友人は同意を	1	2	3	4
私の両親は同意を	1	2	3	4
私は同意を	1	2	3	4

39

40

41

〈男性がかなり年齢が高くなっても童貞のままでいる〉

	しない	まずしない	たぶんする	する
私の男性の友人は同意を	1	2	3	4
私の両親は同意を	1	2	3	4
私は同意を	1	2	3	4

42

43

44

〈女性がかなり年齢が高くなっても処女のままでいる〉

	しない	まずしない	たぶんする	する
私の女性の友人は同意を	1	2	3	4
私の両親は同意を	1	2	3	4
私は同意を	1	2	3	4

45

46

47

〈男性が結婚するまで童貞でいる〉

	しない	まずしない	たぶんする	する
私の男性の友人は同意を	1	2	3	4
私の両親は同意を	1	2	3	4
私は同意を	1	2	3	4

48

49

50

〈女性が結婚するまで処女でいる〉

	しない	まずしない	たぶんする	する
私の女性の友人は同意を	1	2	3	4
私の両親は同意を	1	2	3	4
私は同意を	1	2	3	4

51

52

53

〈男性が他の男性と性的関係をもつ〉

	しない	まずしない	たぶんする	する
私の男性の友人は同意を	1	2	3	4
私の両親は同意を	1	2	3	4
私は同意を	1	2	3	4

54

55

56

〈女性が他の女性と性的関係をもつ〉

	しない	まずしない	たぶんする	する
私の女性の友人は同意を	1	2	3	4
私の両親は同意を	1	2	3	4
私は同意を	1	2	3	4

57

58

59

問 K-8 以下の各項について、あなたが感じていることに一番近い答えを選んで番号に○をつけてください。

	思 わ な い	全 く そ う	思 わ な い	そ う も ち ら い	ど ち ら だ う	そ う け っ こ う	そ う だ く
自分の身体について満足している	1	2	3	4	5		
最新の流行を追うことは好きだ	1	2	3	4	5		
しばしば、私の人生は目的がないと感じることがある	1	2	3	4	5		
結婚は永遠である	1	2	3	4	5		
いろいろな品物が手に入ることで人々の生活が良くなった	1	2	3	4	5		
私が生きていく上で、これ以上のものはいらない	1	2	3	4	5		
不安や居心地の悪さで、どのように対処していいかわからないことがある	1	2	3	4	5		

問 K-9 あなたのセクシュアルライフについて、どう感じていますか。あてはまる番号に○をつけてください。

1. 不満である 2. 満足というわけにはいかない 3. 満足でも不満でもない 4. かなり満足している 5. 非常に満足している

問 K-10 あなたは結婚について、どの様に考えていますか。あてはまる番号に○をつけてください。

1. いますぐ結婚したい 2. いずれ結婚したい 3. 一生結婚するつもりはない 4. 現在結婚している 5. 以前結婚したが、離婚した

問 K-11 あなたは将来子どもをもつことについて、どの様に考えていますか。あてはまる番号に○をつけてください。

1. 子どもをもつつもりはない 2. 1人ほしい 3. 2人ほしい 4. 3人ほしい 5. 4人以上ほしい

■長時間ご協力いただき有り難うございました。

■ 調査票は指定の封筒に入れ 月 日までにポストへ投函してください。

第 11 部 地域・言語圏別研究

第 1 章 ドイツ語圏諸国

分担研究者 原 俊彦

1. ドイツ語圏諸国 平成 13 年度 研究実績
2. 年齢別特殊出生率・年齢別出生順位別出生率の時系列変化
3. 先進諸国における無子割合・1 子割合の増加に関する考察
4. ドイツ語圏諸国の家族政策関連年表
5. インタビュー調査報告書
6. 外国人研究者招聘事業研究実績報告書

1. 研究の概要

今年度は、昨年度の調査から明らかになった無子割合の増加傾向についてドイツ以外のオランダ、スイス、オーストリアに関する分析を行うとともに、比較対照となる、わが国を含めた先進諸国のデータも入手し考察を進めた。またドイツ、オーストリアについて家族政策関係施策に関する詳細な関連年表を作成、モデル家族計算に対応したインタビュー調査をドイツ・フランクフルトで実施し 11 家族について分析を行った。さらにドイツ連邦人口研究所 (BiB)・主任研究員ユルゲン・ドルブリッツを東京に招聘。ヨーロッパ全体の少子化の背景と家族政策の現状分析、無子割合の増加、分析方法などについて貴重な意見交換を行った。なお、当初予定していたオーストリア、スイス、オランダに関するテーマ別分析は、適切な委託研究者が見つからず断念せざるを得なかった。

2. 主な研究成果

2.1 無子割合の増加傾向の分析

無子割合の増加傾向についてドイツ以外にオランダ、スイス、オーストリアの分析を行うとともに、比較対照となるわが国を含めた先進諸国のデータも入手し考察を進めた。

(1) 入手データ

NIDIのEvert van Imhoffからオランダ統計局、イタリア統計局の年齢別出生順位別出生率データを入手。スイスに関してはスイス統計局の戦前・戦後の年齢別出生順位別出生率データを入手。ドイツ、オーストリアについても改めて詳細な年齢別出生順位別出生率を請求した。また国際比較を進めるため、INEDのJean-Paul Sardonの協力を得て北欧、アメリカ、南欧、旧東ブロックを含む先進地域30カ国の無子割合の時系列データを入手した。日本については、石川晃、1990、「わが国女子の出生力表1950～88年」、国立社会保障・人口問題研究所、研究資料第263号のデータを再入力するとともに、国立社会保障・人口問題研究所の2002年の長期人口推計で用いられた「モデル推定値に基づくコーホート指標」の数値を参照した。

(2) 分析結果

年齢別出生率の時系列変化をサーモグラフ化することにより、どの時期にどの年齢層で出生動向の変化が起きたのかを明確に把握することができた。この結果、ドイツ、オランダ、スイス、オーストリアとも、まず戦後の結婚ブームを反映し若年層での爆発的な出生率上昇が発生し、その後、1962年/1963年から高年齢の出生減退が始まり、さらに1970年代中頃から出生タイミングの先送りが起きたという共通のパターンを確認できた。例外は旧東ドイツ地域で体制崩壊直前まで若年層中心の出生パターンが安定していたことが分かった。またオランダとイタリアについて、年齢別出生順位別出生率に分解し同様の作図を行ったところ、1960年代中頃から第3子以上の出生が急速に消滅していった様子が確

認できた。

さらにドイツ、イタリア、日本の無子割合、第1子割合の推移を比較した結果、ドイツでは無子割合の増加とともに1子割合が減少しているのに対し、イタリア、日本では第1子の割合も増加しており、前者は無子と有子家庭への二極化、後者では家族規模の縮小傾向があることがわかった。なお対象を30カ国に拡大して比較を行ったところ、無子割合の増加傾向は、アメリカやスウェーデンなどの北欧諸国の一部では比較的ゆるやかであるが、体制崩壊後の旧共産圏諸国では極めて急激であり、ドイツ・オランダ語圏と南欧がこの中間に属することが判明した。しかし、無子割合と、完結出生力や平均出生年齢との間に明確な相関関係はみられなかった。

2.2 家族政策関係施策に関する関連年表

ドイツ（旧西ドイツ地域、旧東ドイツ地域）とオーストリアに関し、詳細な関連年表を作成したが、オランダ、スイスについては関連項目自体が少なく、家族政策に対する各国の姿勢が確認できた。とりわけ、オーストリアの場合、政策関連項目の広がり、頻繁な改訂が目立ち、憲法上、家族の位置づけが不明確であること、家族政策関連施策が様々な行政分野に分散してしていることが、その原因と考えられる。

2.3 インタビュー調査

（1）実施方法

平成13年3月2日から3月14日までドイツのフランクフルト市及びその近郊で、インタビュー調査を実施した。モデル家族計算に対応し、ドイツの家族政策が、家庭で実際どのように受容・認識されているかを定性的に確認することを目的とした。調査対象とした家族は、無子家族1組、1子家族4組、1子母子家族（同棲後別居）1組、2子家族3組、3子家族2組の計11組で、主として収入、税金、児童手当、育児休業などについて質問した。調査では事前に質問票を配布、面接し会話を録音、VTRによる周辺環境・家族の撮影、テープ内容の事後分析を行った。

（2）調査結果

収入、税金、支出は、各家族とも納税票や家計簿を確認しない限り把握が困難で、曖昧にしか意識されていないことがわかった。一方、児童手当の額は強く意識されているが、ほぼすべての家族で金額が不十分との回答を得た。産休は所得補償もあり高く評価されているが、育休は所得制限の関係で単に3年後の職場復帰の権利が保障されるものと理解されている。また、この関係で男性の取得は論外との意見が大勢を占めた。家族政策関連施策に関心を持つタイミングは、第1子出産を決意するか出産後である点が共通している。

2.4 海外研究者の招聘

平成14年3月18日－3月28日（11日間）、ドイツ連邦人口研究所（BiB）・主任研究員ユルゲン・ドルブリッツを東京に招聘。ヨーロッパ全体の少子化の背景と家族政策の現状について講演会を開催し、無子割合の増加、分析方法に関し貴重な意見交換を行った。

年齢別特殊出生率・年齢別出生順位別出生率の時系列変化

ーサーモグラフ化による分析の試みー

原 俊彦

1.はじめに

出生力の変動は、各コーホートのライフサイクルに沿った動きと、各年次の影響が複雑に絡みあった現象であり、その動きを直感的に捉えることが非常に困難である。とりわけ、年齢別特殊出生率の変化や、これをさらに分解した年齢別出生順位別出生率の変化を観察しようとする、30以上の折れ線グラフを同時に描かねばならず、しかも、比較的出生力水準の低い、低年齢と高年齢でグラフが錯綜してしまうという問題が発生する。また、いずれにせよ横軸に年次と取ったものと、コーホートの出生年次を取ったものの、二図に分かれてしまい、両者の動きを全体的に捉えることができない。

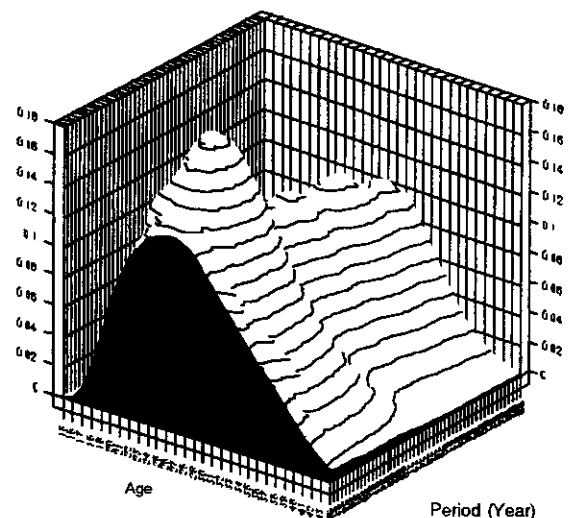
2. サーモグラフ化

そこで、まずX軸に年次、Y軸に出生力、Z軸に年齢を取り、グラフを3次元化することにより、立体地形図のようにして、これを回転させ、年次変動とコーホート変動を観察することが考えられる(図1)。

しかし、この立体地形図では、ここの変動を読みとりにくいという問題が残る。

そこで、この立体地形図の等高線(同じ出生力水準を結んだもの)を平面に投影し、さらに、この平面の等高線図に、年齢別出生率の高さに応じ、赤から紫へとグラデーションをつけ着色し、サーモグラフ(温度分布図)化するという作業を行った。

Age-specific Fertility rates of the Federal Republic of Germany
(West Germany)



Source: BiB

3. 入手データ

NIDIのDr. Evert van Imhoffからオランダ統計局、イタリア統計局の年齢別出生順位別出生率データを入手。スイスに関してはスイス統計局の戦前・戦後の年齢別出生順位別出生率データを入手。ドイツ、オーストリアについても改めて詳細な年齢別出生順位別出生率を請求した。また国際比較を進めるため、INEDのDr. Jean-Paul Sardonの協力を得て北欧、アメリカ、南欧、旧東ブロックを含む先進地域30カ国の無子割合の時系列データを入手した。日本については、石川晃、1990、「わが国女子の出生力表 1950～88年」、国立

社会保障・人口問題研究所、研究資料第 263 号のデータを再入力するとともに、国立社会保障・人口問題研究所の国立社会保障・人口問題研究所の人口統計資料集の各巻の年齢別出生率のデータを参照した。

4. 作図一覧

作図したものの一覧を以下に示す。

Figure 1 東西ドイツ、オーストリア、オランダ、スイス、日本の年齢別出生率の推移

Figure 2 オランダの年齢別出生率、第 1 子、第 2 子、第 3 子、第 4 子以上の年齢別出生率の推移

Figure 3 イタリアの年齢別出生率、第 1 子、第 2 子、第 3 子、第 4 子以上の年齢別出生率の推移

Figure 4 スイスの年齢別出生率の長期推移（1932 年-1996 年）

Figure 5 オーストリアの年齢別出生率と年齢別初婚率の比較

5. 観察結果

年齢別出生率の時系列変化をサーモグラフ化することにより、どの時期にどの年齢層で出生動向の変化が起きたのかを明確に把握することができた。

この結果、ドイツ、オランダ、スイス、オーストリアとも、まず戦後の結婚ブームを反映し若年層での爆発的な出生率上昇が発生し、その後、62-3 年から高年齢の出生減退が始まり、さらに 70 年代中頃から出生タイミングの先送りが起きたという共通のパターンを確認できた。例外は旧東ドイツ地域で体制崩壊直前まで若年層中心の出生が安定していたことがわかる。一方、日本は明らかに別の変動パターンを示しており、第 1 次（1947-49）と第二次のベビーブーム（1967-72）期に若年層で爆発的な出生率上昇が起きていること、丙午の年に非常に強い年次変動が現れていること、ドイツ語圏諸国と比べ、25 歳-29 歳の出生力水準が安定的に高いことが読みとれる（Figure 1）。

詳細なデータが得られたオランダとイタリアについて、年齢別出生順位別出生率に分解し同様の作図を行ったところ、いずれの国でも 1960 年代中頃から 70 年代初めにかけて第 3 子以上の出生が急速に消滅していった様子が確認できた。また両国とも全出生の晩産化は第 1 子、第 2 子の晩産化を反映したものであることがわかる（Figure 2、3）。

さらにスイスの長期推移をみると、戦前の 1940 年から戦後の 1950 年頃にもベビーブームがあったこと、また、戦前の 1932 年から 1940 年までの出生パターンと、戦後の 1980 年以降の出生パターンに相似性があることなどがわかる（Figure 4）。

また年齢別初婚率が得られたオーストリアについて、これを作図し、年齢別出生率の推移と比較してみると、両者の動きは必ずしも一致しているとは言えないことがわかった。

全体の印象としては、年次変動とその余波は観察できるが、明らかにコーホートに沿った動き（マトリックスの対角線方向）はみられない。つまり、この作図から判断する限り、年次変動の連続が、結果的（累積的）にコーホート変動として現れていると考えられる。

Figure 1 ASFRs in Germany, Austria, Netherlands, Swiss and Japan (all births)

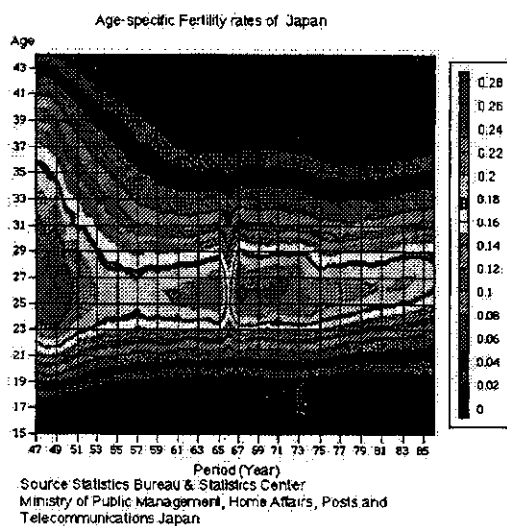
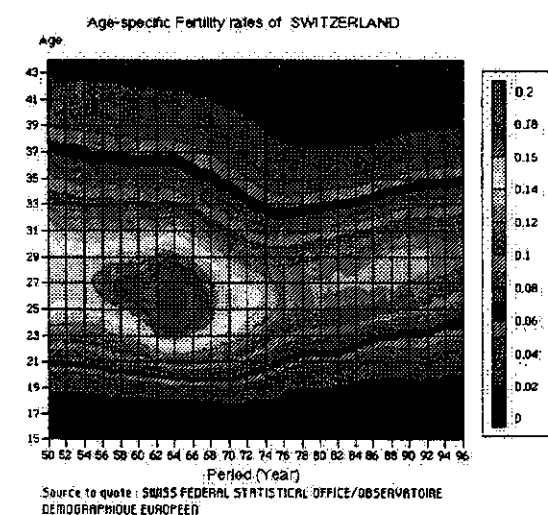
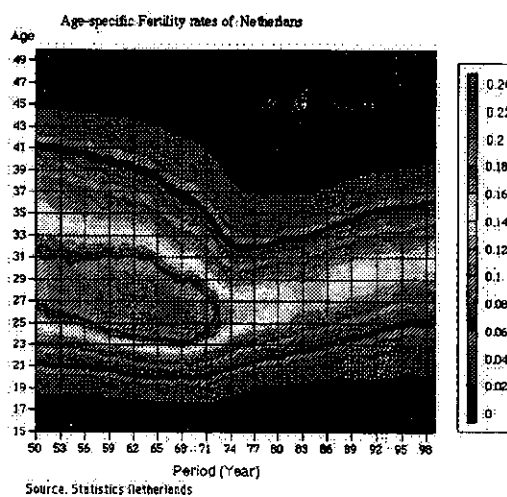
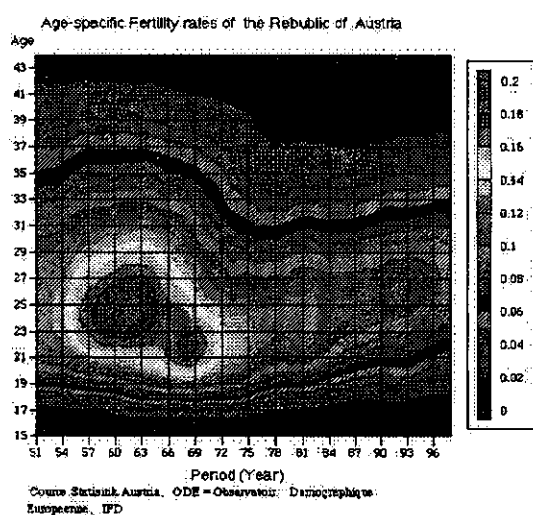
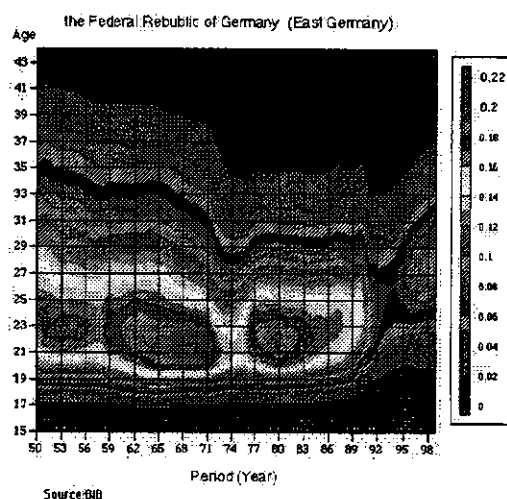
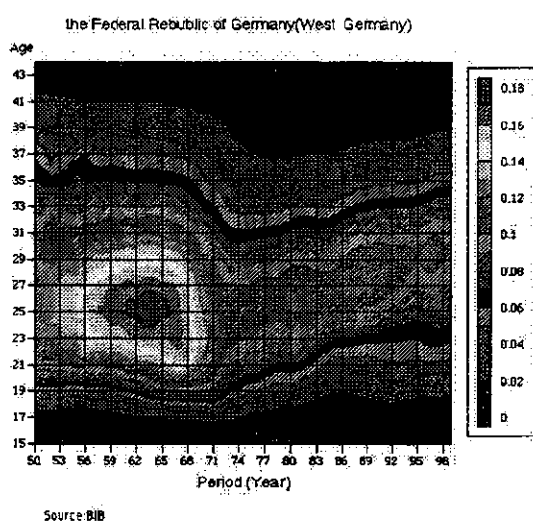
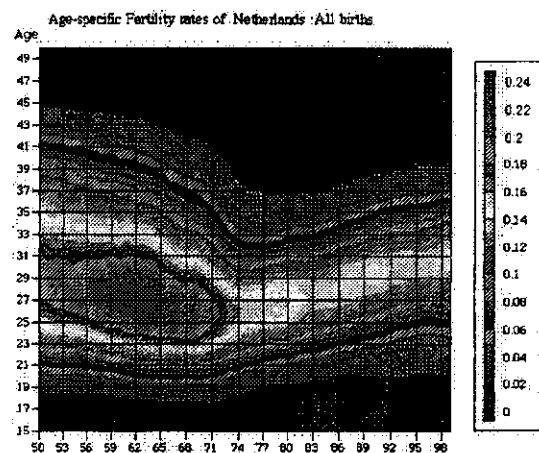
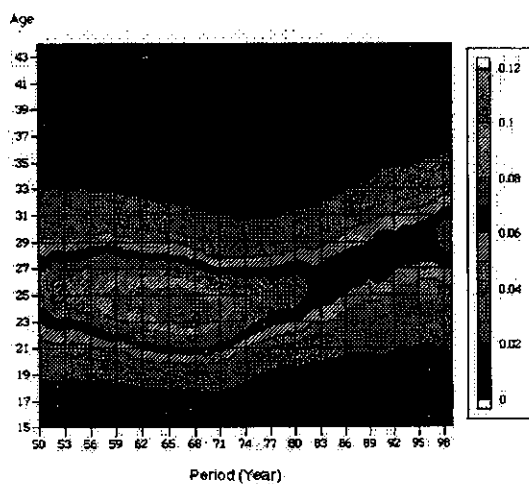


Figure 2
ASFRs Netherlands by period,
age (per 31 December), birth
order

Source: Statistics Netherlands

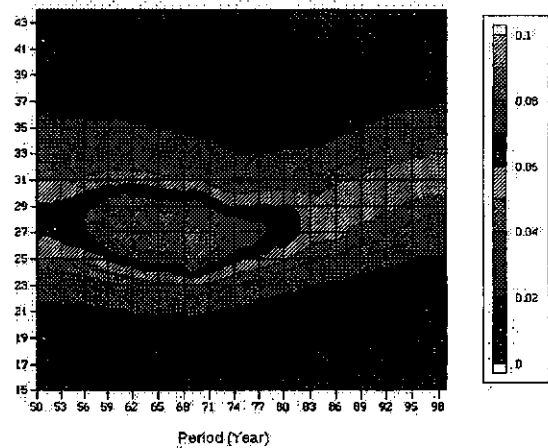


Age-specific Fertility rates of Netherlands: 1st births



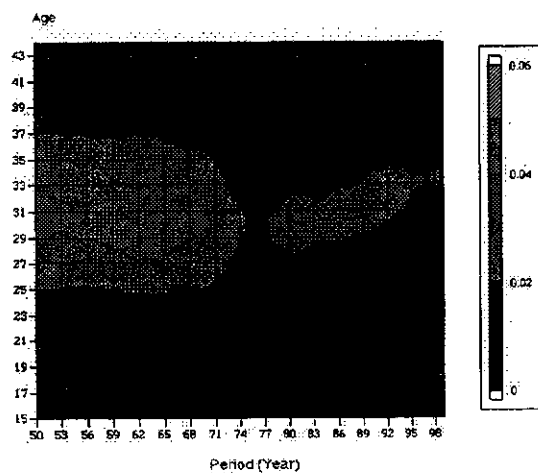
Source: Statistics Netherlands

Age-specific Fertility rates of Netherlands: 2nd births



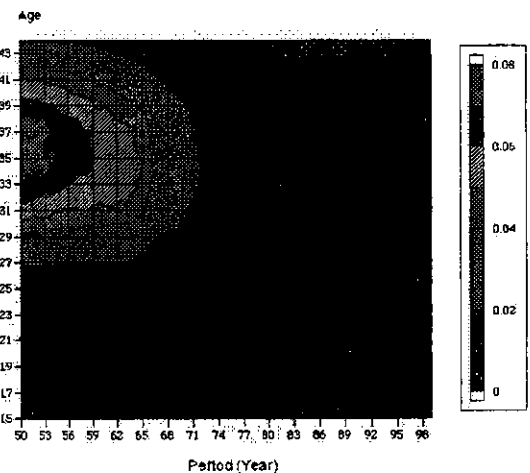
Source: Statistics Netherlands

Age-specific Fertility rates of Netherlands: 3rd births



Source: Statistics Netherlands

Age-specific Fertility rates of Netherlands: 4+ births



Source: Statistics Netherlands

Figure 3
ASFRs Italy by period, age (at
moment of birth), birth order
Source: Statistics Italy (ISTAT)

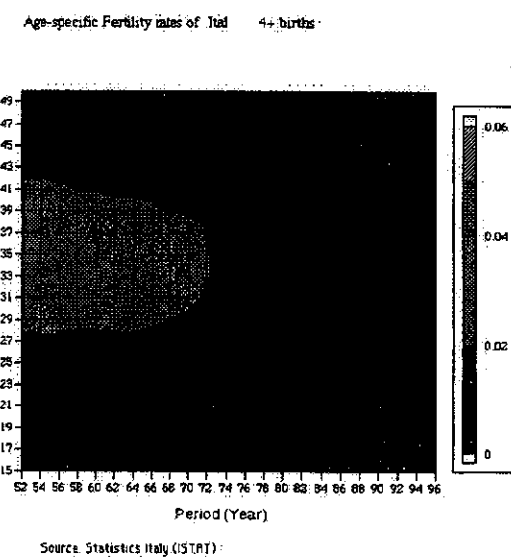
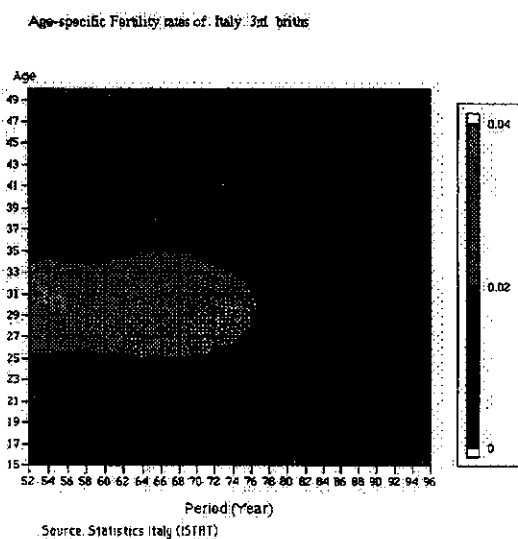
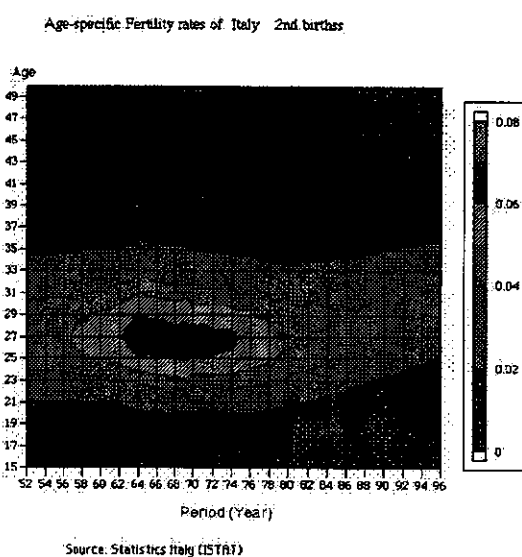
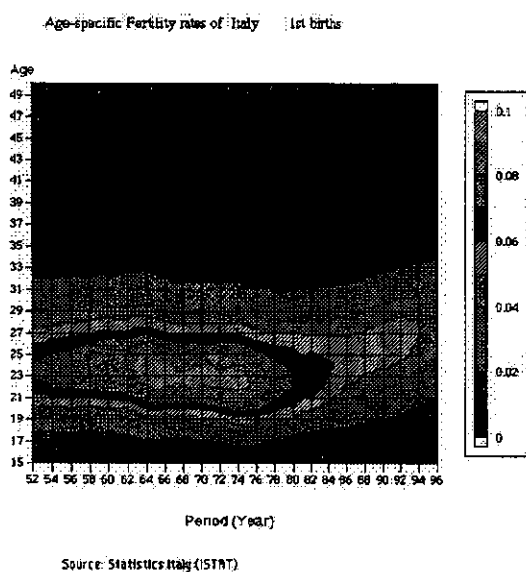
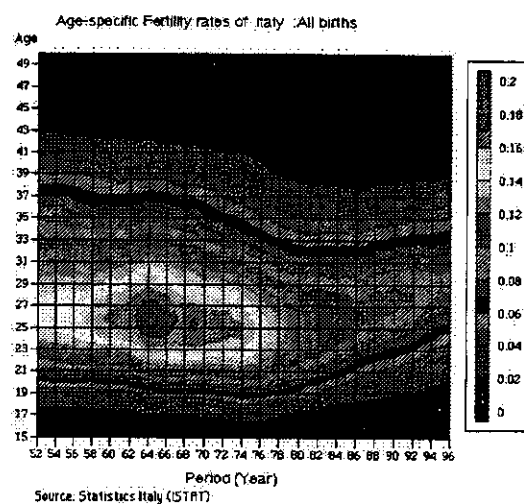
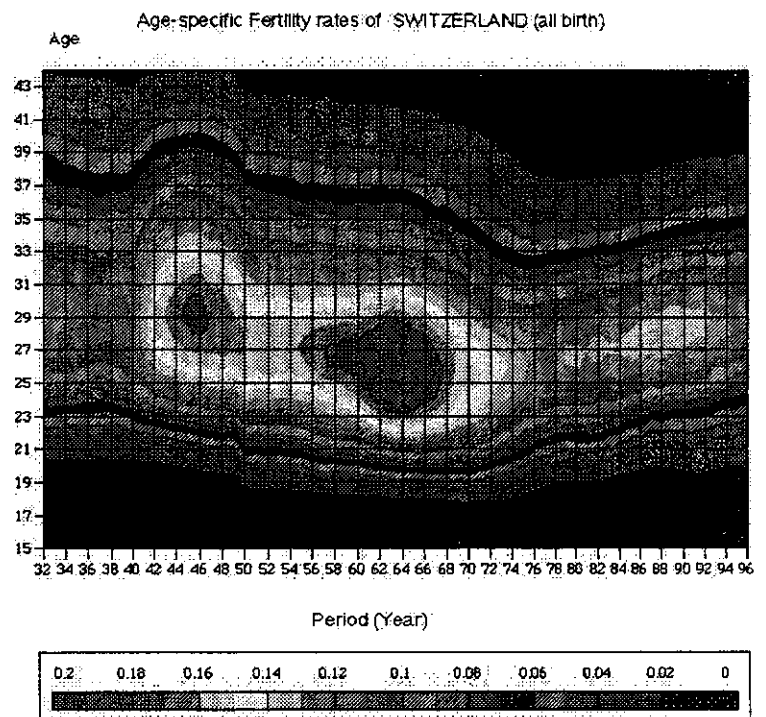


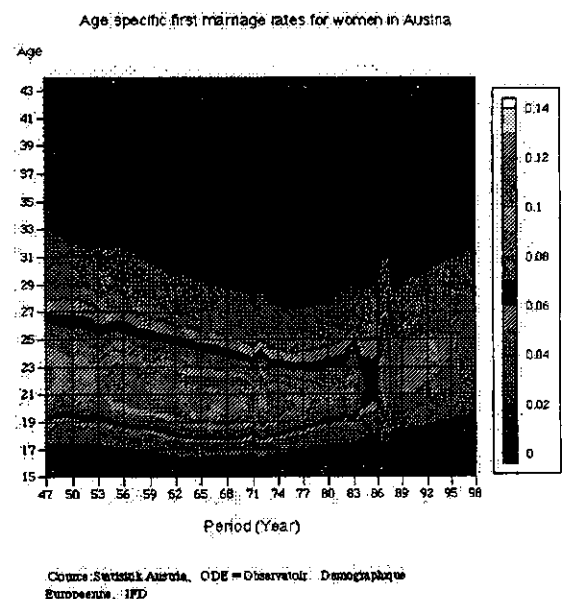
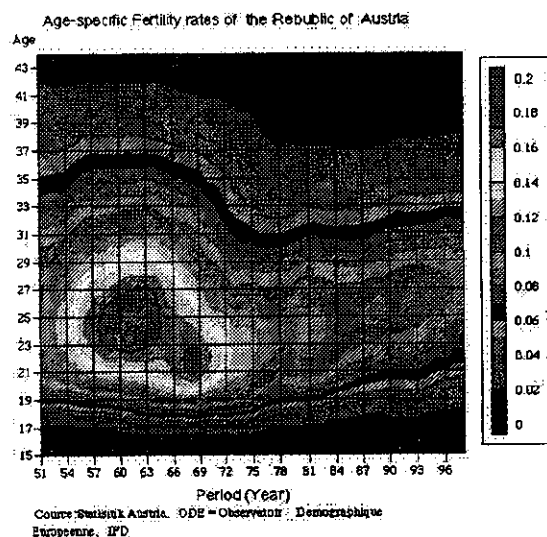
Figure 4 ASFRs of SWITZERLAND, 1932-1996 , by age of mother reached during the calendar year of the birth

Source: SWISS FEDERAL STATISTICAL OFFICE/OBSERVATOIRE DEMOGRAPHIQUE EUROPEEN



Source to quote : SWISS FEDERAL STATISTICAL OFFICE/OBSERVATOIRE DEMOGRAPHIQUE EUROPEEN

Figure 5 ASFRs & Age specific first marriage rates for women in Austria
Cource:Statistik Austria, ODE=Observatoir Demographique Europeenne, IFD



先進諸国における無子割合・1子割合の増加に関する考察

－無子・1子カップル：2子規範は崩れるか

—

原 俊彦

1. はじめに

ヴァンデカーは「第二の人口転換」の様々な特徴の一つとして、晩産化にともなう高年齢での低順位出生の増加、これによる合計特殊出生率のささやかな増加という現象を挙げている。しかし、先延ばしにされた出生がすべて残りの出生可能期間に実現される訳ではなく、また、意図的な無子（voluntary childlessness）も、かなりの程度増加し、結果的にコーホートの完結出力は再生産レベルより低い水準で安定化するという（van de Kaa, 2002）。

実際、ドイツでは旧西ドイツ地域を中心に無子割合が増大する現象が、かなり以前から注目されており、シュバルツは 1996 年の論文『ドイツにおける無子（Kinderlosigkeit）：一般現象？その発現形態と原因の分析』（Dorbritz & Schwarz, 1996）の冒頭で、「無子は少なくとも旧西ドイツ地域で、すでに一般化し、一つの行動パターンとして定着し始めている。従来、無子についてはあまり分析されて来なかったが、すでに現在の状況においても出生力に明らかな影響を及ぼしており、近い将来、旧西ドイツ地域はもとより、（旧東ドイツ地域も含めた）ドイツ全体の出生力水準の、決定的な影響要因となると思われる」と述べている。

一方、わが国においても無子割合は徐々に増大しており、とりわけ近年の出生動向基本調査の結果から、従来比較的安定していた、既婚夫婦の完結出生児数に占める無子、1子の割合の増加が確認され、晩婚・非婚化にともなう出生力の低下に加え、新たに有配偶出生力の低下も懸念され始めている。

そこで本稿では、果たして、このような無子・1子割合の増大が第二の人口転換に直面する先進諸国に共通の現象なのか、また、これが第二次世界大戦後、先進諸国において多子家族の消滅とともに広く確立された2子規範を崩すものとなるのかを検討する。

2. 無子割合と1子割合の推移

（1）ドイツ

無子（Kinderlosigkeit）を、シュバルツは、意識的か無意識的かの問題はおくとして、また子供と同居しているかどうかも別として「一度も父また母にならないこと（Kinderlosigkeit bedeutet, daß man nie Vater oder Mutter geworden ist.）」と定義している。従って、具体的には生涯未婚にとどまり子供を産まない場合と、結婚しても子供を産まない場合が問題となるが、欧米では婚外出生割合がかなり高い比率を占めており、一般に無配偶と有配偶に分けて、これらを観察することは行われていない。

そこで、まず、もっとも早くからこの傾向が注目されたドイツの場合を、女子完結出生力に占める出生児数割合の推移でみると、無子割合は 1940 年出生コーホートの 10.1% から 1965 年の 27.6% まで増加、図にはないが 1966 年出生コーホートでは 29.1% に達するという。これに対し、伝統的に高いと言われる 1子割合は、1940 年出生コーホートの 23.8% から 1950 年出生コーホートの 27.4% まで増加した後、むしろより若い 1965 年出生コーホートでは 19.8% へと、低下する傾向を示している（1966 年出生コーホートでは 19.3%）。